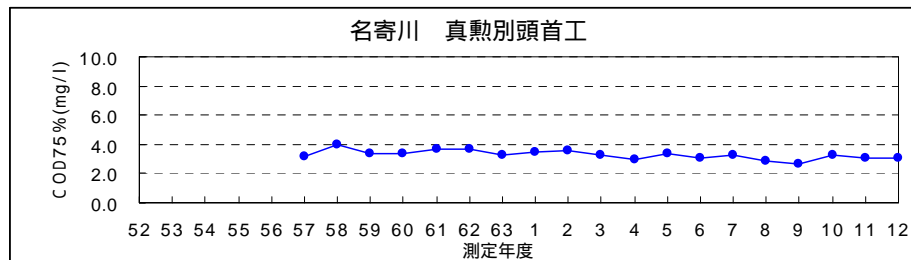
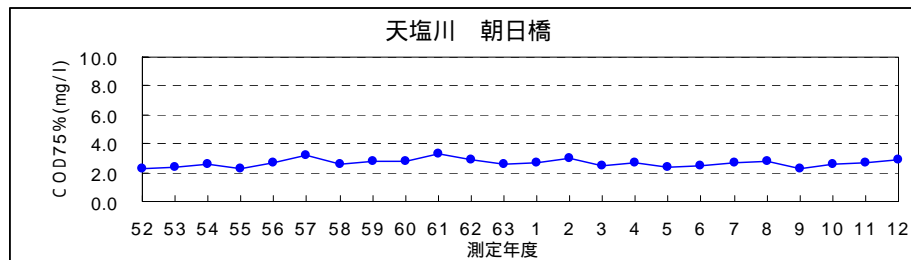
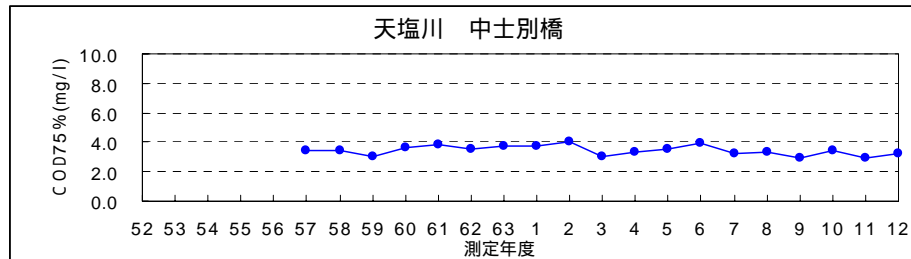
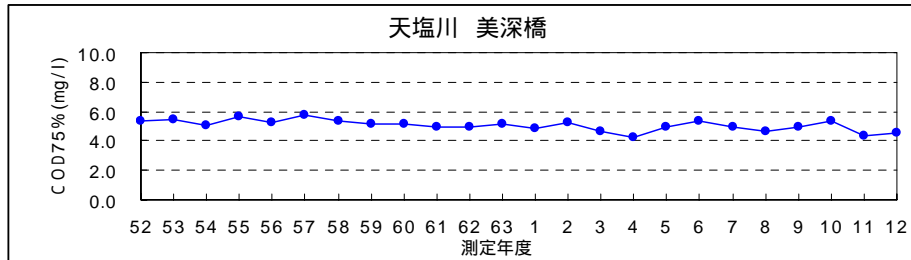


水質等の現状



天塩川COD75%値推移図

(1) 水質汚濁

1) 水温変化現象

水温変化についての予測結果から、ダム完成後の放流水の水温は、流入水の水温と概ね同程度かやや上回っていることから、環境保全目標を満足する。

2) 濁水現象

濁水現象についての予測結果から、ダム完成後の放流水の濁度は、流入水の濁度と比較して全般的に低くなる傾向にあることから、環境保全目標を満足する。

3) 富栄養化現象

ポーレンバイダーモデルによる予測結果から、富栄養化現象の発生する可能性は低いと考えられることから、環境保全目標を満足する。

(2) 植物

オクミチヤナギ、エゾオオヤマハコベ、エゾノレイジンソウについては、事業の実施により湛水区域に含まれる生育地が消失するが、対象区域の他の生育地及び湛水区域周辺に分布している同様な生育環境は現状どおり保全されるものと考えられる。

アカミノルイヨウショウマについては、確認された生育地が湛水区域から離れており、生育環境の大部分は現状どおり保全されるものと考えられる。

ヤマハナソウ及びイソツツジについては、湛水区域内で確認された生育地が消失するが、湛水区域周辺に分布している同様の生育環境は現状どおり保全されるものと考えられ、又、事業の実施に当たり、適切な対策を講ずることから保全されるものと考えられる。

このことから「環境要素への影響を努めて最小化する」という環境保全目標を満足する。

(3)動物

1)哺乳類

クロテンについては、事業の実施により湛水区域に含まれる生息環境は消失するが、湛水区域周辺には主要な生息環境と考えられる森林が広域に分布しており、大部分の生息環境は現状どおり保全されるものと考えられることから、「環境要素への影響を努めて最小化する」という環境保全目標を満足する。

2)鳥類

クマゲラ

本種については、事業の実施により湛水区域内の採餌木を含む森林は消失するが、確認された営巣木は湛水区域外であり、また現在繁殖に使われていないこと、湛水区域周辺には、本種の生息に適していると考えられる大径木を含む森林が広域に分布していることから、大部分の生息環境は現状どおり保全されるものと考えられ、「環境要素を努めて保全する」という環境保全目標を満足する。

ハイタカ

本種については、事業の実施により湛水区域に含まれている森林は消失するが、湛水区域の周辺には本種の生息環境に適していると考えられる森林が広域に分布しており、大部分の生息環境は現状どおり保全されるものと考えられることから、「環境要素への影響を努めて最小化する」という環境保全目標を満足する。

オオジシギ

本種については、事業の実施により湛水区域に含まれる雑草原、採草地等の生息環境は消失するが、湛水区域周辺にも採草地等の同様の生息環境が広く分布しており、大部分の生息環境は現状どおり保全されるものと考えられることから、「環境要素への影響を努めて最小化する」という環境保全目標を満足する。

カワセミ

本種については、事業の実施により湛水区域に含まれるサンル川などの一部の生息環境は消失するが、湛水区域周辺に分布している同様な生息環境は現状どおり保全されるものと考えられることから、「環境要素への影響を努めて最小化する」という環境保全目標を満足する。

3)両生類

エゾサンショウウオについては、事業の実施により湛水区域に含まれる生息環境は消失するが対象区域の他の生息地及び湛水区域周辺に分布している同様な生息環境は現状どおり保全されるものと考えられることから、「環境要素への影響を努めて最小化する」という環境保全目標を満足する。

4)魚類

トミヨについては、事業の実施により湛水区域に含まれるサンル川の一部の生育環境が消失するが、名寄川本流など湛水区域周辺に分布している同様な生息環境は現状どおり保全されるものと考えられることから、「環境要素への影響を努めて最小化する」という環境保全目標を満足する。

5)陸上昆虫類

ヒメギフチョウ、シロオビヒメヒカゲ及びオオルリオサムシの3種については、事業の実施により湛水区域の生息環境は消失するが、対象区域の他の生息地及び湛水区域周辺に分布している同様な生息環境は現状どおり保全されるものと考えられること、チャマダラセセリ、ヒメウスバシロチョウ、カバイロシジミの3種については、確認された生息地が湛水区域外であり生息環境は現状どおり保全されるものと考えられることから、「環境要素への影響を努めて最小化する」という環境保全目標を満足する。

(4)景観

景観については、事業の実施により湛水区域の山麓樹林の一部と農耕地が湖水に変化し、新たな景観を創出することから現状の景観に悪影響を及ぼすことはないものと考えられ、「環境要素への影響を努めて最小化する」という環境保全目標を満足する。